

助成事業実施報告書

団体名 国立駅前大学通り商店会

代表者・役職名 氏名 会長 秋田康佑

1. 助成プロジェクト名

「国立のまち」歴史物語シリーズ刊行プロジェクト

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

国立駅前の緑地・街路灯など環境の維持向上を図ることが共通課題となったため1993年4月に設立された。国立に来訪する人たちに喜んでもらうとともに、各団体と連携して、魅力ある街づくりに励むことを目的とする。70余の店舗を会員とする。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

今から2年後の令和2(2020)年の春に国立駅周辺は大きく様変わりする。即ち長いこと懸案であった国立のシンボル、三角屋根の駅舎が国立駅南口に復元される。地元としては、この復元事業は、景観都市・文教都市としての国立市のプレゼンスと誘客の気運を高められる格好の機会と捉えている。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

令和2年4月、国立駅の三角屋根駅舎が復元される。これを機とし、国立や周辺の市民など駅を利用する人たちに国立の魅力をメッセージする。そのため3年間にわたる手軽な読み物風の「国立のまち」歴史物語シリーズを刊行する。あわせて関連の市民フォーラムを開催。そのことで国立市民には街への誇りを、訪問者には国立駅への関心を、地元商店街には賑わいづくりの気運を高めていく。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

平成30(2017)年度は「国立の文化の町づくり」をテーマにした。このテーマの下、文教都市国立を形づくってきた作家、画家、漫画家、陶芸家、映画人などを幅広く紹介。写真やイラストも多用して市民になじみある冊子を1000部作製し配布した。あわせて、この歴史物語を素材にした市民の交流フォーラムを、地元国立で多くの市民らの参加を得るなどして1回、他地域の街づくりを比較した都心部(千代田区)での交流フォーラムを1回と、2回開催した。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

3年間のシリーズとして、1年目は「国立の景観まちづくり」、2年め(2018年)は「国立の文化・文化人」を実施。3年めの2019年度は「駅前の賑わいづくり」をテーマに刊行する予定である。その後はシリーズ刊行の成果を生かしたイベントの実施を工夫していく。

7. 参考資料

「国立のまち歴史物語」(文化編)

参考資料あり

国立のまち歴史物語

文
化
編



国立大学町を眺める婦人像 大正14年



昭和40年頃の国立駅 四季を演出する国立駅前大学通りであれば、時に大雪に埋もれる水墨画を描く年もある。

「国立のまち歴史物語」(シリーズ第2回 [文化編])

販売：300円

発行：国立のまち歴史研究会・国立駅前大学通り商店会

監修：NPOフォーラム自治研究 (FJK)

編集レイアウト：(株)ジェイクリエイト

協力：国立市観光まちづくり協会/明窓浄机館/真如苑

(表紙絵画：中島渉氏蔵)
